

剪定枝葉の解繊装置の開発

企業 / 名古屋港木材倉庫（株）

研究者 / 木方洋二（名古屋大学農学部講師）

廃棄物である剪定枝葉の有効利用促進の為に開発した本解繊装置は、供給装置と集塵装置を組み合わせ、剪定枝葉を一定の細粉に大量に粉砕しなおかつ解繊し、畜産の敷料また発酵堆肥やボード原料として小型で高能率な乾式の解繊装置である。

畜産の敷料として利用するには、乾式で解繊し乾燥する必要がある。堆肥利用するには発酵速度を早めるため、空気の混入が可能なサイズで且つ細粉上に粉砕する必要がある。又、ボード製造用には木材繊維を残す解繊が必要である。このような問題は、本装置では、刃形を替えるのみで可能とした。

さらに、剪定枝葉を安定的に大量に供給する装置（スクリュウコンベアー）、原料中の金属類や石等不純物の除去及び、枝と葉を選別する装置（風選機、回転篩機）等組み合わせ効率的に解繊出来るシステムとした。本装置は、他の木質系（解体家屋等）や刈り草の解繊にも利用出来る。



解繊装置



破碎刃の1例